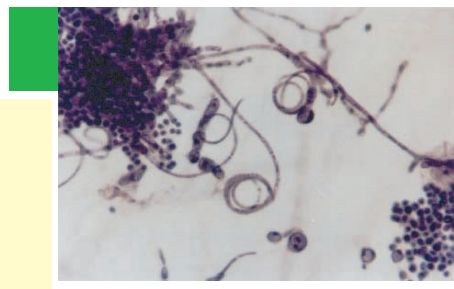


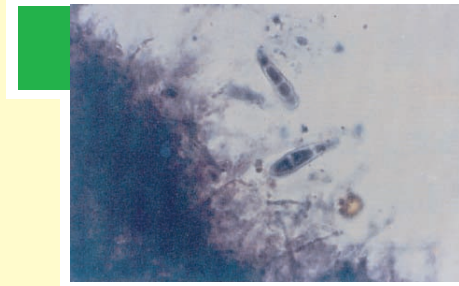
# TME-SH培地

## 皮膚糸状菌簡易検出培地



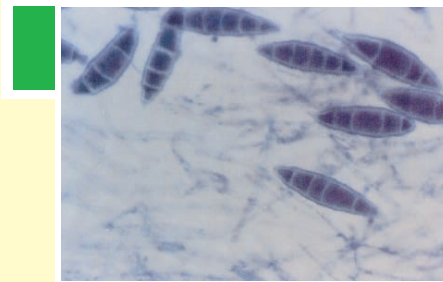
*Trichophyton mentagrophytes*  
らせん器管 ×200倍

25℃、2週間のスライド培養の形態にて、らせん状のらせん器管と球状の小分生子が見られる。



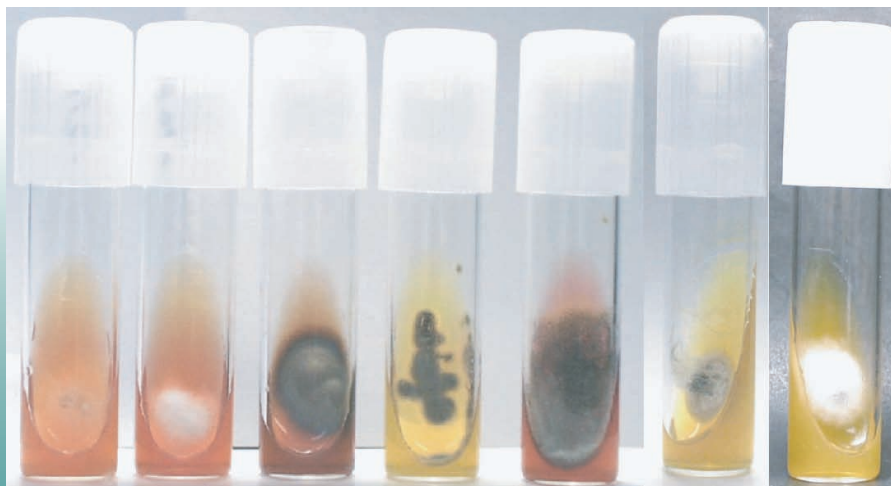
*Epidermophyton floccosum*  
大分生子

25℃、2週間のスライド培養の形態にて、紡錘状をした4~6個の隔壁を持つ大分生子が観察される。大分生子の外膜表面は一般的に平滑であるが、この菌種のは粗であり、凹凸が見られる。



*Microsporium gypsum*  
大分生子

25℃、2週間のスライド培養の形態にて、腸詰状大分生子が観察される。頑癬汗疱状白癬などより検出される。



*M.canis*

*T.mentagrophytes*

*Cladosporium sp*

*Ochroconis sp*

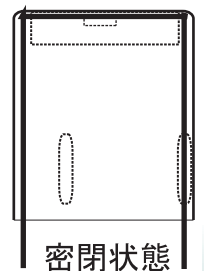
*Alternaria sp*

*Scopulariopsis sp*

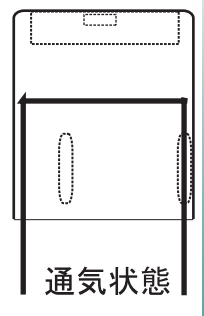
*Penicillium sp*

● 培養は通気状態で  
おこなってください

試験管



密閉状態



通気状態

株式会社 日研生物

〒613-0046 京都府久世郡久御山町大橋辺外縁23

TEL 075-631-6187 FAX 075-632-0367

<https://www.nikken-bio.co.jp>

2021.04

# TME-SH培地

(皮膚糸状菌簡易検出用培地)

皮膚糸状菌症を大別すると、角質、毛髪、爪に疾患を起こす表在性と皮膚深部組織などに病変をつくる深在性に分かれます。例えば白癬菌 (*Trichophyton*) の多くは、角質層に病変をもたらして表在性疾患の原因となりますが、ときには真皮に強い炎症を伴うケルスス禿瘡、肉芽腫などの深在性病変の原因にもなります。これらの疾患は温暖または多湿地方に多く、診断は比較的容易ですが、起炎菌の決定には菌の分離同定を行う必要があります。本培地は、発育性、反応性および雑菌抑制力において優れています。

## 【特徴】

- ① *Trichophyton rubrum*, *T. mentagrophytes*, *T. verrucosum* 等の *Trichophyton* 属、*Microsporum canis*, *M. gypseum* 等の *Microsporum* 属および *Epidermophyton floccosum* などを検出することができます。
- ② シクロヘキシミド、テトラサイクリン等の抑制剤により、雑菌を強く抑制し皮膚糸状菌の検出が容易です。
- ③ 皮膚糸状菌の発育により生じたアルカリ性代謝物が、培地に含まれるpH指示薬(フェノールレッド)の色調を赤変化させることにより、他の真菌との鑑別が可能です。

## 【検体の採取方法】

培養検査を実施する場合、十分な検体を無菌的に採取する事が要求されるため、70%エタノールあるいは石鹼水を滅菌ガーゼに浸し局所洗浄を行ってください。洗浄にあたっては脱脂綿や綿球の使用は避けてください。

皮膚組織 ■ 鱗屑/病巣中心部を避け病巣の辺縁部より削り取る。

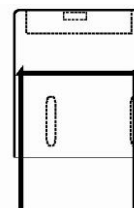
丘疹・水疱及び膿疱/丘疹はハサミで上部を切り取り検体とする。水疱及び膿疱は疱膜を滅菌したハサミで切り取り検体とする。水疱液や膿を検体として採取しないこと。

毛髪 ■ 毛抜きや眼科用ピンセットにて5~12本程度の患毛を検体とする。うまく採取できない場合は、滅菌したクシあるいはブラシで採取する。黄癬の場合は菌甲を検体とする。

爪 ■ 破壊された爪の表面には、汚染菌や死滅した皮膚糸状菌が多く存在しているので、メスで表面を削り取った後に検体を採取する。

## 【培地への接種・判定方法】

- ① 採取した検体は、培地斜面に接種してください。(但し、埋め込まないでください。)
- ② キャップは培地内部の通気性をよくするために、キャップを5mm程度浮かし、通気状態(右図参照)にして、25℃前後の室温で培養し、4~6日毎に観察してください。昼と夜の温度差が著しい場合はインキュベーターにて培養を行ってください。
- ③ 検体接種後14日以内に綿毛様白色集落と赤変化を認めたときは「皮膚糸状菌陽性」と判定し、綿毛様白色集落と培地の赤変化が認められないときは「皮膚糸状菌陰性」と判定してください。(表面の写真参照)



## 【使用上の注意】

- 皮膚糸状菌以外にもこの培地を赤変化させる糸状菌(表面の写真参照)が存在しますので、形態学的同定結果と合わせて最終診断としてください。
- 使用前に培地が赤変化あるいは培地の亀裂等を認める場合は、使用しないでください。
- 使用済みの培地は消毒用アルコール、クレゾール液等を容器内に充填し3日間放置するか、オートクレーブ(121℃、20分)を用いて滅菌した後、廃棄してください。

